

ニュージーランド分析会社 農薬分析に乗り出す

水質検査データにおける信頼性確保の方向性が議論されている中、ニュージーランド分析会社が、農薬分析に乗り出す。

農薬の分析についても ISO 対応を標榜していることを考えるべきではないか。詳細は、下記の水道産業新聞を参照してほしい。

◆水道産業新聞 10月4日(月)付

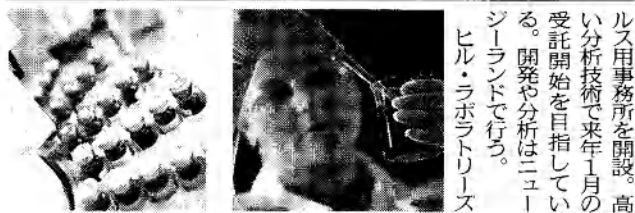
農薬分析を10万円以下で 水道分野で受注めざす

ヒル・ラボラトリーズ・ジャパン

ニュージーランドの民間最大の分析会社のヒル・ラボラトリーズの日本法人であるヒル・ラボラトリーズ・ジャパン(千葉県印西市、伊藤寿代表)は10%農薬の分析に乗り出す。分析価格は10万円以下を予定しており、全国の浄水場などで受注を目指す。電子メールで申し込みを行い、サンプルをニュージーランドへ空輸して分析。結果は約2週間後にPDFで送付される仕組みだ。同社はISO17025、GLP認証取得済みで、環境、食品、農産土壌中の微量分析のエキスパートである。

◇ 毎年、厚生科学審議会生活環境水道部会で随時見直しが行われており、平成15年から原水中に残存する10%農薬のD.I.規制値が1を超えないこととする10%総農薬方式が採用されているが、検出限界、感度目標値が小さすぎて受け皿となる受託分析機関の技術的ハードルも高くなっている。

ヒル・ラボラトリーズはニュージーランドの分析機関で、千葉県印西市に日本・アジア向けセー



ルス用事務所を開設。高い分析技術で来年1月の受託開始を目指している。開発や分析はニュージーランドで行う。ヒル・ラボラトリーズはISO17025、GLP認証取得済みの環境、食品、農産土壌中の微量分析のエキスパートであり、ニュージーランドの民間最大の分析会社である。ニュージーランド政府からの受託も多い。日本でも農水省の分析委託業務でも落札実績を持つ。社員は260名だが、開発専門スタッフは10数名在籍している。分析価格は10%農薬で10万円以下を予定している。電子メールで申し込みを行い、1サンプル分析のようすと続々集まるサンプル

につき3つの容器を用意。サンプルはニュージーランドに空輸して分析。証明書は和英併記でD.I.計算結果も同時に集計する。納期は約2週間。PDFで送付される。同社は100から2000農薬程度を追加するパッケージもオプションで用意する予定。

同社では「水道事業者の農薬分析の受注を目指すが、分析はあくまで手段。分析を通じて様々なデータを蓄積して顧客が活用できるようサポートしていきたいとしている。